

学校教育目標	子どもたちがともに学び、創り出し、行動することができるようにします。～輝く自分 輝く鶴小～ ○学ぶ楽しさと創り出す喜びを味わう子を育てます。(知) ○規範意識をもち、他者を尊敬できる子を育てます。(徳) ○自他の生命や健康を大切にできる子を育てます。(体) ○地域に学び、地域に働きかけることができる子を育てます。(公) ○さまざまな社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)				
	学校概要	創立 65 周年	学校長 渡辺 正規	副校長 丹野 悦子	2 学期制
児童生徒数: 575 人		主な関係校: 西谷中・本宿中・鶴ヶ峯中			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	西谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> ○好奇心 主体性・積極性 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢 ○意思決定する力 ○自分の考えを深化させる力 ○リーダーシップをとる力 ○自己肯定感	西谷中学校 市沢小学校 川島小学校 鶴ヶ峯小学校	○自分も他の人も大切にし、人と社会につながる子ども ○自分の考えを表現し、ともに学び合う子ども ・小中一貫教育研究会の実施 ・定期的な情報交換(ブロック内児童指導専任と生徒指導専任の協議会、教務主任会、新入生に関わる情報交換) ・児童生徒の交流(中学校での授業見学、部活動体験など) ・教員の交流(年間3回)の小学校の授業参観

中期 取組 目標	子どもの人権を守り、安心して豊かに学校生活が送れるようにします。 ・主体的な行動を支える資質能力を身に付けられるようにする、基礎・基本を重視した授業を行います。 ・児童支援専任を中心とした組織的な児童指導を行います。 ・教職員の専門性の向上を目指し、チームとしての組織的な学校運営を進めます。 ・家庭・地域との連携を深め、開かれた学校づくりを行います。
-------------------------	--

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>確かな学力</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>重点研・教務・視聴覚</td> </tr> </table>	知	確かな学力	担当	重点研・教務・視聴覚	①主体的に対話的な学習を通して、知識・技能の定着を図り、思考力・判断力を高める。また、豊かに表現し、自他ともに認め合い、自己肯定感を高められる子の育成を図る。②教科担任制を積極的に取り入れ、質の高い授業を通じて学習意欲を高める。③ICT機器を積極的に活用し、学習の定着を図る。
知	確かな学力				
担当	重点研・教務・視聴覚				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>豊かな心</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>あひる班・道徳・人権福祉</td> </tr> </table>	徳	豊かな心	担当	あひる班・道徳・人権福祉	①たてわり活動の取組を通して、協力する心や相手を思いやる気持ちを育てる。②特別な教科道徳を通して、自他のよさを認め、よりよい生き方を考えようとする子どもの育成に努める。③人権週間の取組で、様々な立場の人の理解を深める学習を行い、人権意識を育てる。
徳	豊かな心				
担当	あひる班・道徳・人権福祉				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健やかな体</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育・健康食育・養護</td> </tr> </table>	体	健やかな体	担当	体育・健康食育・養護	①全校運動に縄跳びをし体力アップ月間を年間通して取り組む。②養護教諭と栄養教諭と連携し、学級ごとに保健目標を設定し心身ともに健やかな体づくりに努めるとともに、食に関する指導の実践を図る。
体	健やかな体				
担当	体育・健康食育・養護				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公 開</td> <td>自分づくり教育 (キャリア教育)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務・特活</td> </tr> </table>	公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	担当	教務・特活	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりの自尊感情が高まるようにする。②「キャリアパスポート」等を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)				
担当	教務・特活				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">いじめへの対応</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導専任</td> </tr> </table>	いじめへの対応		担当	児童指導専任	①いじめについて積極的に認知し、子どもの心情に寄り添うことを徹底する。②定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努める。③いじめ防止研修を実施していじめに対するアンテナを高くするとともに些細な変化を見逃さないような体制づくりをする。
いじめへの対応					
担当	児童指導専任				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">人材育成・ 組織運営(働き方)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>メンター研・主幹会・働き方を考える会</td> </tr> </table>	人材育成・ 組織運営(働き方)		担当	メンター研・主幹会・働き方を考える会	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織して継続して活動を行う。②主幹会を月一回程度開催し、学校づくりについて意見を交換し、学校経営に積極的に参画できるようにする。③会議の持ち方を検討し、職員室等の執務環境を整備し、ICTを活用して業務の軽減を図るなどして、働き方改革を進める。
人材育成・ 組織運営(働き方)					
担当	メンター研・主幹会・働き方を考える会				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">地域学校協働活動</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務</td> </tr> </table>	地域学校協働活動		担当	教務	①学校運営協議会を定期的に行い、地域・関係機関と学校が連携を取りながら、学校運営に関する諸課題について検討し、改善を図る。
地域学校協働活動					
担当	教務				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">特別支援教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導専任</td> </tr> </table>	特別支援教育		担当	児童指導専任	①個別支援学級の充実を図り、一般学級との連携を強化する。②特別支援COとの連携を強化し、一般学級に在籍する要支援の児童に合理的配慮を行い、安心して学べる場の充実を図る。③誰もが安心して学校生活を送れるように、人権意識を高める。
特別支援教育					
担当	児童指導専任				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">児童生徒指導</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導専任</td> </tr> </table>	児童生徒指導		担当	児童指導専任	①定期的に子どもの様子を共有し、必要な子どもには全職員で指導・支援にあたる。②Y-Pアセスメントを活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導の充実を図る。③児童支援専任を中心とした指導体制を充実させ、教職員の対応力向上を目指し校内研修を実施させる。
児童生徒指導					
担当	児童指導専任				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">a15</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td></td> </tr> </table>	a15		担当		b10
a15					
担当					

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

子どもたちがともに学び、創り出し、行動することができるようにします。～輝く自分 輝く鶴小～

- 学ぶ楽しさと創り出す喜びを味わう子を育てます。(知)
- 規範意識をもち、他者を尊敬できる子を育てます。(徳)
- 自他の生命や健康を大切にできる子を育てます。(体)
- 地域に学び、地域に働きかけることができる子を育てます。(公)
- さまざまな社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈自分づくりに関する力〉

- 好奇心 主体性・積極性
- 自分らしさを発揮しようとする姿勢
- 意思決定する力
- 自分の考えを深化させる力
- リーダーシップをとる力
- 自己肯定感

具体化した資質・能力

好奇心 基本的な生活習慣をつくる態度 主体性・積極性 地域のことを知り、関わる態度
粘り強く課題に取り組む力 社会生活の中での協調性 他者を理解する態度 自己を理解する姿勢
意思決定する力 課題に対応する力 学校生活へ参画しようとする姿勢 メタ認知する力
伝え合うことで自分の考えを進化させる力 縦割り活動でリーダーシップをとる力
解決方法を工夫する力 つながりを考え、合意形成する姿勢 自己肯定感

中期取組目標

子どもの人権を守り、安心して豊かに学校生活が送れるようにします。

- ・主体的な行動を支える資質能力を身に付けられるようにする、基礎・基本を重視した授業を行います。
- ・児童支援専任を中心とした組織的な児童指導を行います。
- ・教職員の専門性の向上を目指し、チームとしての組織的な学校運営を進めます。
- ・家庭・地域との連携を深め、開かれた学校づくりを行います。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①主体的に対話的な学習を通して、知識・技能の定着を図り、思考力・判断力を高める。また、豊かに表現し、自他ともに認め合い、自己肯定感を高められる子の育成を図る。②教科担任制を積極的に取り入れ、質の高い授業を通じて学習意欲を高める。③ICT機器を積極的に活用し、学習の定着を図る。
担当	重点研・教務・視聴覚

学力向上に関わる本校の状況

〇横浜市学習状況調査の結果より
学力について、全体的に平均を下回っている。また、学習した知識を活用した問題についての解答が難しい。解答を導くための道筋を立てることが苦手であることが要因として考えられる。
学習に対する意欲は、年々上がってきている。また「自分の考えを発表している」ということに対して前向きに努力する児童についても徐々に上がってきている。
これらを受けて、
・学習したことを普通の生活の中で生かしたり、学習課題に対してどのような過程で解決したのか筋道立てて考えたり、説明したりする授業展開を工夫する必要がある。
・学習を支える知識・理解の定着を図っていくとともに、身近な生活に結び付けたり、友達と協働して学習問題を解決したりしていく必要がある。
〇GIGAスクール構想における本校の実態
タブレット使用について、ほとんどの児童が自分の力で使用することができている。また学年が上がるにつれて、インターネットを用いて調べられる力は上がってきている。
一方で自分の使いたいように使用する傾向がある。そのため、学習とは関係ないことに使用している児童が散見される。

今年度の目標

「主体的・対話的な学びの中で豊かに表現し、自己肯定感を高められる子」
～身近な材に興味をもち、生かすことができる子どもをめざして～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- ・毎回の授業では、「何を学ぶのか」という学習のめあてや、「何のために学ぶのか」という必要感を全体で確認していく。
- ・学習課題に対してどのような過程で解決したのかを友達同士で教えあう。その中で筋道立てて考えたり、説明したりするよう力をつけていけるようにしていく。
- ・宿題等を活用しながら、学習へのさらなる理解をしていけるようにする。
- ・タブレットを用いた授業を取り入れ、学習に前向きに取り組めるようにしていく。
- ・情報モラルとして学ぶべき項目を、学年に応じて指導していく。

下半期

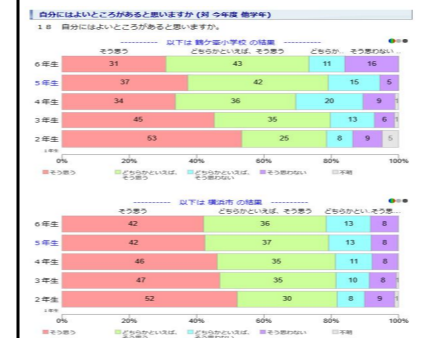
- ・毎回の授業では、「何を学ぶのか」という学習のめあてや、「何のために学ぶのか」という必要感を全体で確認していく。
- ・学習課題に対してどのような過程で解決したのかを友達同士で教えあう。その中で筋道立てて考えたり、説明したりするよう力をつけていけるようにしていく。
- ・宿題等を活用しながら、学習へのさらなる理解をしていけるようにする。
- ・タブレットを用いた授業を取り入れ、学習に前向きに取り組めるようにしていく。
- ・タブレット使用のルールについて確認をしていく。
- ・情報モラルとして学ぶべき項目を、学年に応じて指導していく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①たてわり活動の取組を通して、協力する心や相手を思いやる気持ちを育てる。②特別な教科道徳を通して、自他のよさを認め、よりよい生き方を考えようとする子どもの育成に努める。③人権週間の取組で、様々な立場の人の理解を深める学習を行い、人権意識を育てる。
担当	あひる班・道徳・人権福祉

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
横浜市の学力・学習状況調査の結果を基にすると、本校の児童は2年生以外は、市の平均よりも自己肯定感が低い。特に4年生と6年生は、市よりも平均よりも10%以上低い。



(2)これまでの学校の取組状況
新型コロナの流行により、3年間人と関わる活動が制限されてきた。その中でも、ガイドラインを基に活動を工夫してきたが、自分の良さに自信をもたせられるような活動を十分に行えなかった結果だと考える。

今年度の目標

学校生活の様々な場面で、人と関わる体験的な活動を積極的に取り入れ、その中で自他の良さに気づき、それを認め合える、よりよい人間関係作りをめざしていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 〇たてわり活動では、『ゆめつるフェスティバル』を主な活動として、縦割り活動を進めていく。また、集会や学習の中での交流等、年間を通した継続的なたてわり活動を行うことで、人間関係づくりやコミュニケーション能力を育てる。
- 〇以前重点研究で取り上げた道徳の成果を生かしながら、道徳的な価値を実感できるような授業を展開していく。行事との関連を考えながら、自分事として捉えながら考えを深めたり広げたりできるようにしていく。

下半期

- 〇各教科や行事の中で体験的な活動を積極的に取り入れ、実感を伴いながら多様性を認められるように学習を工夫していく。また、外部との関係機関とも連携を取りながら効果的に指導していく。
- 〇たてわり活動では、『ゆめつる交歓会』を主な活動として、縦割り活動を進めていく。また、集会や学習の中での交流等、年間を通した継続的なたてわり活動を行うことで、人間関係づくりやコミュニケーション能力を育てる。
- 〇以前重点研究で取り上げた道徳の成果を生かしながら、道徳的な価値を実感できるような授業を展開していく。行事との関連を考えながら、自分事として捉えながら考えを深めたり広げたりできるようにしていく。
- 〇各教科や行事の中で体験的な活動を積極的に取り入れ、実感を伴いながら多様性を認められるように学習を工夫していく。また、外部との関係機関とも連携を取りながら効果的に指導していく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①全校運動に縄跳びをし体力アップ月間を年間を通して取り組む。②養護教諭と栄養教諭と連携し、学級ごとに保健目標を設定し心身ともに健やかな体づくりに努めるとともに、食に関する指導の実践を図る。
担当	体育・健康食育・養護

健やかな体に関わる本校の状況

〇児童の体力・健康面の姿から課題を明確にし、体育科の授業や休み時間を中心としながら教育活動全体を通して、健やかな体の育成を目指す。

【調査結果】
本調査より、本校の児童は主に全身持久力、筋力に課題があることが分かった。市の平均の記録と比較すると全学年が下回る結果となった。特に平均から15回下回る結果となり持久力の低下が目立つ。
【調査結果の考えられる原因】
本校はコロナ禍で休み時間に校庭で遊べる人数を限定した。そのため外で体を動かすことが減ってきた。今年度に入り校庭に出かける子どもも見られるようになったが、まだ教室で過ごしている子どもも多く、それが体力低下につながっていると考える。また、自宅の過ごし方を見るとゲームや携帯を3時間以上扱う割合も平均より多いため体を動かす時間が減っていると考える。
【調査結果を受けて】
今年度も体力を高めるために大縄大会を実施し、体力の向上を図る。昨年度は学年対抗にすることで盛り上がる学年もあったが、大縄大会が終わると運動をやめてしまう様子が見られた。そこで、今年度は大縄大会を2回行い、1回目の記録を更新できるように取り組む形を考えている。年間を通して運動する習慣をつけ、体力向上をねらう。また、学校保健員会では「家の過ごし方」についても考え、運動をすることが健康につながることを全校に広めていきたい。

今年度の目標

児童の体育・健康面の姿から課題を明確にし、体育科の授業や休み時間を中心としながら教育活動全体を通して、健やかな体の育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 〇一校1実践運動に「大縄跳び」を取り上げ、学級で繰り返し実施することを通して、体力の高まりを図る。
毎回の記録を視覚化し、最高記録を目指せるようにしながら、継続的に体力向上を目指す。
- 〇体力テストの結果を児童に返却し、自分の体力の現状を知る機会を設ける。自分の体と向き合い、より健康に過ごそうとする気持ちを高める。

下半期

- 〇学校保健委員会を実施し、1年間学級で取り組む保健目標を立て1年間意識しながら生活する。子ども達の日々の生活に目を向け、自ら進んで健康に過ごすための方法を考えたり、振り返りする機会を設ける。また、養護教諭や栄養教諭が適宜指導に入り、より子ども達の考えを深められるようにしていく。
- 〇一校1実践運動に「大縄跳び」を取り上げ、学級で1回目の記録を超えられるように練習することを通して体力の高まりを図る。
毎回の記録を視覚化し、最高記録を目指せるようにしながら、継続的に体力向上を目指す。
- 〇体力テストの結果を受けて、どのような運動能力を高めていく必要があるかを考える時間を設け、自分の健康を考えられるようにしていく。
- 〇学校保健委員会を実施し、1年間学級で取り組む保健目標を立て1年間意識しながら生活する。子ども達の日々の生活に目を向け、自ら進んで健康に過ごすための方法を考えたり、振り返りする機会を設ける。また、養護教諭や栄養教諭が適宜指導に入り、より子ども達の考えを深められるようにしていく。